

助成年度：平成 20 年度

[所属] 阿南工業高等専門学校

[役職] 校長

[氏名] 小松 満男

[課題]

地域社会の協働体（産官学民による新しい公）による環境保全の実践とモデル化

[内容]

徳島県南部地域の産官学民（徳島県、阿南市、那賀町、美波町、王子製紙、日亜化学工業、日本電工、大塚製薬、阿南高専、徳島大学、地元 NPO など）の協働体を組織し、その協働によって地域の環境保全活動を実践した。

組織された産官学民の共同体による取り組みとして、地域の水環境の現状を知ることを目的とした、産官学民連携による徳島県南部圏域をフィールドとした地域一斉水質調査と、徳島県南部地域の河川周辺に残された希少植物生息調査を行った。

地域一斉水質調査は、市民の参加も募り、トータルで 1000 人規模の一斉調査が実施された。この調査によって、地域の水環境のよい点、改善を要する点が明らかになり、特に汚濁の進行している河川（打樋川）の保全に向けた取り組みを地域の産官学民が連携して実施するための大きな礎となった。

本地域の河川（桑野川）に生息する絶滅危惧種オヤニラミを水質保全のシンボルの生物ととらえ、その分布や遺伝的集団構造の把握を行い、今後の保全に向けた基本情報を明らかにした。本地域の岡川では同じく希少・重要植物であるヒメコウホネが生息していることを確認し、今後の保全・保護に向けた有益な情報を得ることができた。